

2023～ 実践事例検討とスーパービジョン	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	田中 尚・竹之内 章代	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

福祉実践現場での事例の検討を行いながら、実践活動の構造、その中で求められるソーシャルワークの価値、知識、介入方法と技術の明確化を図り、教育的、支持的、管理的な視点からのスーパービジョンを行う。

■授業の目的

社会福祉の実践事例検討を学ぶことにより、事例の理解を深め、ソーシャルワーカーとしての理論に基づいた実践力を向上させる。加えて、スーパービジョンを実施することにより、受講者の専門職としての自らとその実践への省察を進め、高度な実践力の定着を図る。

■授業の到達目標

1. 社会福祉実践における実践事例検討を、ソーシャルワーク・モデルや理論の生成に至る方法の一部として位置づけ、それを応用し、新たな知見を見いだす試みを実践することができる。
2. スーパービジョンを受けることで、自らの実践力を高めるとともに、その根拠を説明することができる。

■授業の概要

本授業では、実践事例検討とスーパービジョンにより、社会福祉専門職としてのより高度な実践力の体得を目指す。ここでは社会福祉現場での事例を、専門的知識や専門的技術、さらにソーシャルワークの価値・倫理をベースに検討する。スクーリングでは、まず実践における事例検討とスーパービジョンの意義や目的を知ること、さらに実践を支える専門的知識や技術、倫理について学ぶ。これらの基本的な視点を学んだ上で、さまざまな実践分野からの実践事例を用いて、受講者とともに検討を行う。検討の中から導き出された実践や研究的な視点を、グループスーパービジョンによって気づかせ、より高度な実践力を獲得させることを目指す。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	実践研究の基本的な考え方	実践、実践研究、反省的实践	実践研究とは何か、実践を通して研究とはどのようなことであるのかについて考える。
2	実践現場における実践研究の基本的な考え方	現場実践、実践研究、実践の質の向上	実践現場とはどのような場であり、そこで何をどのように研究するかについて考える。
3	事例報告の方法の基本的な考え方	実践事例報告の意味、事例報告の方法・様式	実践事例をどのように報告するのか、また、そのための方法・様式のあり方などを学ぶ。
4	事例検討の方法と基本的な考え方	実践事例の検討、検討の方法と基本姿勢・態度	実践事例をそのように報告し、検討するのかについて、その方法を学ぶ。
5	スーパービジョンの基本的な概念	スーパービジョンとその定義、意義、歴史	スーパービジョンの基本的な理解として、その定義、必要性、歴史などについて学ぶ。
6	スーパービジョン関係	スーパーバイザー、スーパーバイジー、関係	スーパービジョンにおけるバイザー・バイジー関係の重要性、その意味について多角的に学ぶ。
7	スーパービジョンの機能：管理的機能	スーパービジョンの管理的機能	スーパービジョンにおける管理的機能の内容とその意義について学ぶ。
8	スーパービジョンの機能：教育的機能	スーパービジョンの教育的機能	スーパービジョンにおける教育的機能の内容とその意義について学ぶ。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
9	スーパービジョンの機能：支持的機能	スーパービジョンの支持的機能	スーパービジョンにおける支持的機能の内容とその意義について学ぶ。
10	スーパービジョンの方法	契約、形態、方法、効果評価	スーパービジョンの方法について、その準備、契約のあり方、方法などについて学ぶ。
11	スーパービジョンの実際：ミクロレベルのSV	ミクロレベルの実践とスーパービジョン	ミクロレベルの実践における管理的、教育的、支持的な機能について学ぶ。
12	スーパービジョンの実際：メゾレベルのSV	メゾレベルの実践とスーパービジョン	メゾ（地域・組織）レベルの実践における管理的、教育的、支持的な機能について学ぶ。
13	スーパービジョンの実際：マクロレベルのSV	マクロレベルの実践とスーパービジョン	マクロレベルの実践における管理的、教育的、支持的な機能について学ぶ。
14	スーパービジョンにおける留意点	スーパービジョンの効果、実施上の課題	スーパービジョンの効果と評価について多角的に把握する視点について学ぶ。
15	スーパービジョンの実施体制	スーパービジョンを行う環境、体制、基本要件	スーパービジョンを実施するうえでの環境要件、体制などについて学ぶ。

■スクーリング事前課題（学修時間目安：10時間以上）

1. 初回スクーリングの事前課題 テキストを読み、実践事例研究の理論と枠組みを把握しておく（5時間程度）。
2. 3回目スクーリングの事前課題 テキストを読み、スーパービジョンの理論と方法について理解しておく（5時間程度）。
3. 5回目スクーリングの事前課題 認定社会福祉士制度スーパービジョン実施要項を読み、自己チェックシート、契約書、誓約書などスーパービジョンを受けるにあたって必要な書類を作成しておく（2時間程度）。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	事例検討の方法（実践事例の分析枠組み、対象や分野ごとの検討方法）	オンデマンド
2	事例検討の実際（受講者それぞれの実践事例の検討課題を抽出し、実際に検討する）	オンデマンド
3	スーパービジョンの理論と枠組み（スーパービジョンの理論と方法について学び、スーパーバイザーとして必要な基礎知識を知る）	オンデマンド
4	スーパービジョンの実際（認定社会福祉士制度において提出が必要な様式の説明なども含む）	オンデマンド
5	グループスーパービジョンの準備（グループ構成、取り扱う事例、メンバーの波長合わせなどを行う）	オンデマンド
6	グループスーパービジョン①	対面
7	グループスーパービジョン②	対面
8	グループスーパービジョン③	対面
9	グループスーパービジョン④	対面
10	グループスーパービジョン⑤	対面
11	グループスーパービジョン⑥	対面
12	グループスーパービジョン⑦	対面
13	グループスーパービジョン⑧	対面
14	振り返り（個別に自己チェックシートと毎回の個人記録を照合しスーパービジョンの自己評価を行う）	対面
15	総括（これまでの学びのまとめとその報告会）	対面

■スクーリング事後課題（学修時間目安：10時間）

1. 認定社会福祉士制度の様式第7号スーパーバイザー個人記録を用い、実践事例検討で見出した実践、新たな知

見、また高度な実践家としての自らの課題が、スーパービジョンによってどれくらい定着したのか、振り返りを行う。

2. この授業を通して気づいたより高度な専門職としての自らの課題と、その解決方法をまとめなさい。

■レポート課題

課題 1 (事前課題)	(1) 実践事例研究の理論と枠組みについてまとめなさい (スクーリング初日までに提出)。 (2) スーパービジョンの理論と方法についてまとめなさい (スクーリング3日目までに提)。 (3) 認定社会福祉士制度の必要書類の提出 (スクーリング5日目までに)。
課題 2 (事後課題)	この授業を通して気づいたより高度な専門職としての自らの課題と、その解決方法をまとめなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

課題 1 アドバイス

テキストなどを用いて、実践事例検討とスーパービジョンの枠組みをしっかりと理解したうえで、スーパービジョンを受けられるよう準備をしましょう。提出されたレポートは授業の中で添削指導します。

課題 2 アドバイス

スーパーバイザーとしてグループスーパービジョンを受講するにあたり作成した自己チェックシートと毎回の個人記録を照合し、より高度な社会福祉専門職としての専門性が身についたか、確認しておきましょう。

■評価の方法・基準

- ・スクーリングの参加度 (25%)
- ・スクーリングにおけるプレゼンテーションや取り組む姿勢 (25%)
- ・事後課題レポート (50%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- 1) 岩田正美他編 (2006)『社会福祉研究法：現実世界に迫る 14 レッスン』有斐閣アルマ.
- 2) 渡部律子 (2007)『基礎から学ぶ気づきの事例検討会：スーパーバイザーがいなくても実践力は深められる』中央法規出版.
- * 3) 野口定久他編 (2014)『ソーシャルワーク事例研究の理論と実際：個別援助から地域包括ケアシステムの構築へ』中央法規出版
- 4) 日本ソーシャルワーク教育学校連盟監修 (2015)『ソーシャルワークスーパービジョン論』中央法規出版